
逗子市地域公共交通計画策定の意義及び 関連調査業務の全体像について

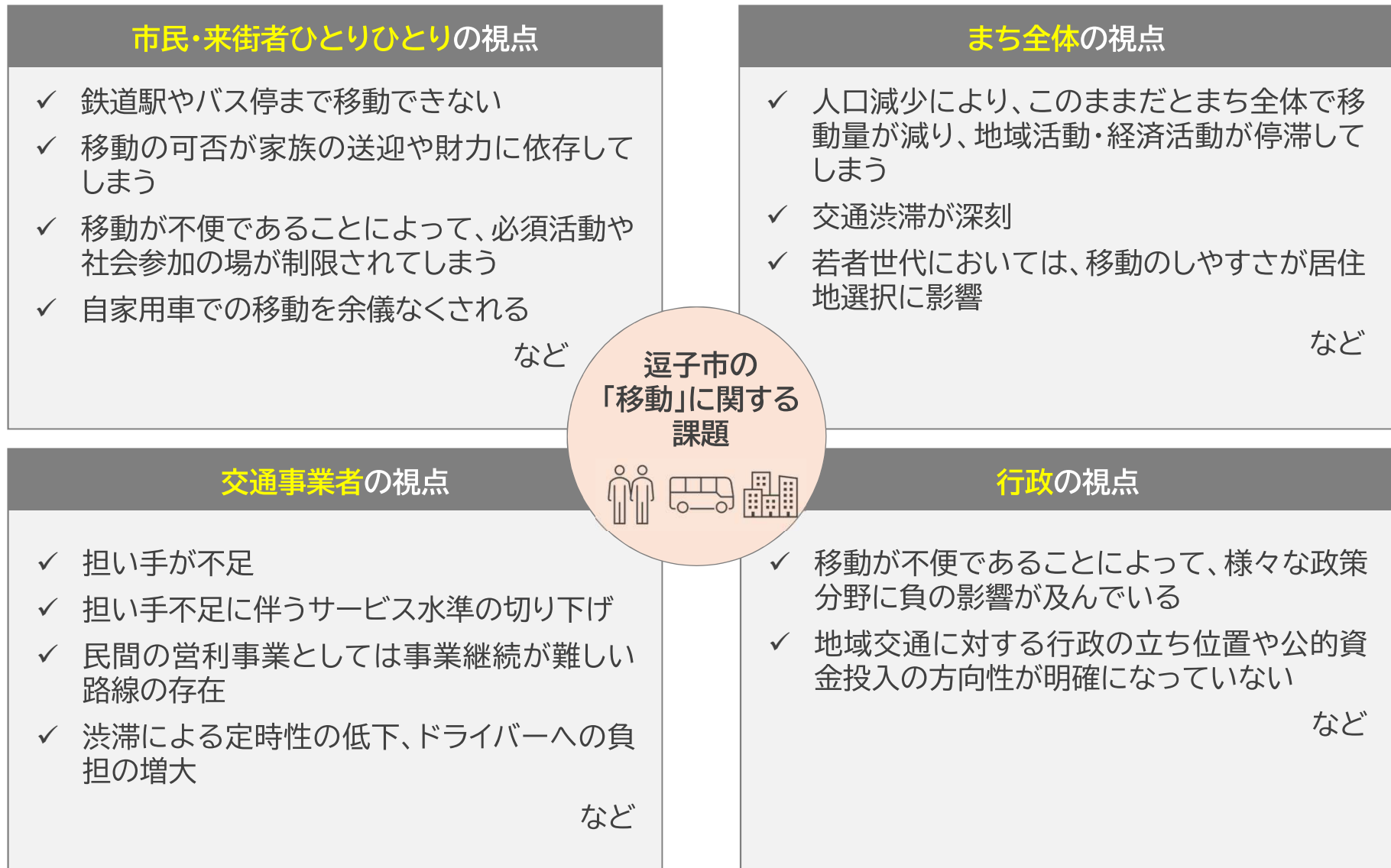


環境都市部 環境都市課

2025年7月

1. 逗子市における「移動」に関する課題

- 「移動」に関する課題は主体によって異なる。地域公共交通計画の作成に当たっては、**それぞれの立場で抱える困難や制約を可視化し、認識を共有した上で解決策を模索することが必要。**



2. なぜ地域公共交通計画を作成するのか？

- 地域公共交通計画は、単なる移動手段の維持・確保に向けた計画ではなく、**地域の将来像の中で移動することの価値を捉え、地域でその実現を保証するために作成する。**

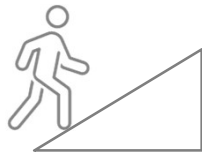
協議会で議論する点	ビジョンとの連携を考える	課題の解決策を考える	資源の確保を考える
	✓ 地域が目指す将来像に対し地域交通がどのように貢献できるのか？地域交通を使ってどのようなまちを作りたいのか？ ✓ そのために、今地域で足りていないものは何か？	✓ ターゲット毎に課題感が異なる中、それぞれの課題に対応した解決策は何か？ ✓ どのような施策を組み合わせることで効果が引き出せるのか？	✓ 地域のヒト・モノ・カネの制約の中で、どこまでできるか？誰が、何を負担するのか？ ✓ 取組に対して、何がネックになっているか？何を解消すれば前に進むのか？
議論のポイント	○ 移動を確保することはあくまでも「手段」であり、その先に何を実現したいのかを明らかにする × 移動手段を導入する、維持することが先行し、何のための取組みかが見えなくなる	○ まちを形作る様々な政策分野と連携することのメリットを明らかにする × 特定のターゲットや一部の交通手段にのみ焦点が当てられている	○ 「今の条件のもとでできる施策」と、「条件が変わればできる施策」を明らかにする × 今の条件のもとでできる施策しか記載されない／実現性が担保されない施策が記載されている

これらの事項を関係者間で議論し、合議によって決めることで、**様々な政策に係る意思決定の「拠り所」**になる地域公共交通計画を作成する

3. 逗子市地域公共交通計画の策定を通じて実現したい地域交通

- 逗子市の移動課題は、地形による制約や交通混雑、人口減少に伴う担い手不足など、複合的な構造を持っている。
- これらに対応するためには、**移動支援の多様化**とともに、**行政・交通事業者・地域住民が連携した地域交通の運営体制の構築**が必要となる。

01



地理的制約の中での 移動支援

逗子市は駅・停留所のカバー圏域が充実している一方、**高低差や狭隘道路により公共交通の利用が困難な地域や、日常的な移動に支障をきたしている地域**が存在します。移動制約者を含む多様なニーズに対応した移動手段の提供が求められます。

02



交通混雑の解消

逗子市中心部では、市内外の住民の日常的な移動に加えて観光交通も集中することから、**交通混雑が発生しやすく、公共交通の定時性や自家用車利用の円滑性に影響を及ぼしています**。道路空間の最適化や交通手段の役割分担など、需要の平準化に向けた対策が必要です。

03



持続可能な体制の構築

人口減少が進行する中で、地域の移動を交通事業者（バス・タクシー会社）単独で支えるには限界があります。**行政・交通事業者・地域住民が連携し、地域の実情に即した持続可能な交通運営体制の構築を進める必要があります**。

4. 実現したい移動と確認事項・必要データの関係性

		01 地理的制約の中での移動支援 (生活支援交通の確保)	02 交通混雑の解消 (都市交通の確保)	03 持続可能な体制の構築
市民・来街者 の視点	実現したい移動	移動制約が強い方々を含めて、日常生活に必要な移動ができる	自家用車に過度に依存しなくても、日常生活に必要な移動や市内主要施設間の移動ができる	- 住民や来街者が地域交通を積極的に利用する - 地域自らが移動支援に関わる
	確認すること	- 地理的制約の実態はどうか - 移動制約が強い方が普段どこに行っているのか、行きたいが行けていない状況があるか	- 自家用車利用者の起終点・利用経路、交通混雑の発生状況 - 自家用車利用のうち、公共交通に転換できる余地はあるか	- 住民や来街者が公共交通を利用するための条件 - 地域活動や地域の移動支援活動の実態・課題
	必要なデータ	- 地理的制約の実態(統計データ) - 移動制約が強い方々を含めた、普段の移動実態・移動ニーズ(庁内・関係者ヒアリング、市民アンケート、市民懇談会)	- 自家用車を含めた逗子市に関連する移動の実態(人流データ) - 主要道路における自動車交通量、旅行速度(道路交通センサス) - 住民や来街者の公共交通の利用意向(市民アンケート、市民懇談会)	- 訪問ニーズの高い活動・施設の実態(庁内・関係者ヒアリング、市民アンケート、市民懇談会) - 地域における移動支援に係る取組の実態・課題(庁内・関係者ヒアリング、市民懇談会)
交通事業者／行政の視点	実現したい移動	- 既存公共交通を利用しやすい環境を作る - 既存公共交通を補完する移動支援を行う	- 公共交通軸のサービス水準を確保する - 拠点の多核化により交通負荷を平準化する	地域交通の維持・確保・改善に必要なヒト・モノ・カネが継続的に調達できる
	確認すること	- 駅・停留所等への移動が困難な場所はどこか - 駅・停留所等への移動が困難なことにより既存公共交通の利用が難しい場所・時間帯はあるか	- 公共交通軸の公共交通のサービスの提供水準と利用実態 - 公共交通軸上のサービス水準を確保する上でのボトルネック - インフラ(道路等)の改善余地	- 地域交通サービスを継続的に提供する上でのボトルネック - 今後の既存公共交通のサービス改変の可能性
	必要なデータ	- 鉄道・バスネットワーク情報(交通事業者保有情報) - 駅・停留所別乗降実態(交通事業者保有情報) - タクシーの日報情報(交通事業者保有情報) - 福祉バス利用実態(市保有情報)	- 鉄道・バスネットワーク情報(交通事業者保有情報) - 駅・停留所別乗降実態(交通事業者保有情報) - 遅延や混雑の発生状況(交通事業者保有情報※ヒアリング含) - 道路整備等の計画(庁内ヒアリング)	- 運行体制の実態(運転手数、年齢構成、車両台数、整備状況等)(交通事業者保有情報) - 経営上の課題と改善方策(交通事業者保有情報) - 収支構造(交通事業者保有情報)